

SEI in Collaboration with UNDP
China,

*China Human Development
Report 2002: Making Green
Development a Choice.*

New York: Oxford University Press,
xiv+104pp.+Annex A48.

の が み ひろ き
野 上 裕 生

本書は中国の環境問題を人間開発との関連において分析したレポートであり、ストックホルム環境研究所（Stockholm Environmental Institute: SEI）と国連開発計画（UNDP China）との共同研究の成果である。UNDPの『人間開発報告』（*Human Development Report*）は10年以上公開されており、開発問題に重要な問題提起を行ってきた。またこれに加えて個別地域の人間開発をテーマにしたレポートも公開されてきた。本書もこうしたレポートのひとつであるが、環境保全をテーマにした点が特徴である。

第1章は緑の改革（Green Reform）をしていくことの根拠を解説して、現在の中国が環境問題において挑戦しなければならない課題をまとめている。特にこの章は、環境の変化がいかにして人々の生活と健康に影響を与えていくのか、人々の選択がどのようにして環境を変えていくのか、そして最後に持続可能な将来に向けた環境政策の選択肢（option）はなにか、という本書全体の問題意識をまとめている。本書は中国の環境問題の将来を分析するために、シナリオによる分析（シナリオ・アプローチ）を試みている。シナリオ・アプローチでは、歴史的経過から現状に至るまでの原動力（driving forces）が識別され、それが人間の選択と重要な不確定要因（critical uncertainties）によって影響を受けて、最終的には、「危険な道」（perilous path）と、「緑の改革」への道の分岐点を構成すると捉えられる。第2章は中国の環境問題の現状分析を行っているが、ここでは予備知識のない人にも有用な解説が行われている。

第3章では環境と社会を結び付ける連関（nexus）

を包括的にまとめている。そこでは人口と労働移動、経済成長と開発戦略、貧困・平等・環境的公正、環境に対する認識（environmental awareness）、消費行動、技術発展、社会的財としての水、エネルギー、交通、農業と食糧生産、グローバリゼーション、ガバナンスと制度などを分析している。これらの問題に関する現在のトレンド、影響の程度、データの（質の）状況、重要な不確定要因、政策介入の可能性、政策介入のコストという項目について、問題点が表の形式でまとめられている。第4章は現在の政策対応の問題点をまとめている。この章では行政による統制やキャンペーンによるアプローチに加えて、改革以降の法と規制によるアプローチを解説し、それに加えてNGO（政府が組織したものも多い）やメディア、学術研究機関の役割にも触れている。第5章はこれまでの考察をまとめ、環境保全と人間開発を両立させるという目標から見たときの中国の環境政策の最適な選択肢を論じている。この章では行政の統制やキャンペーンに依存したアプローチは適切とは言えなくなってきたとあり、今後の環境政策は法律に基づいた管理や市場を活用したアプローチをより重視する必要があるという評価をしている。

付録は中国の人間開発指数（HDI）と環境指標をまとめており、特に「人間のリスク指数」（Human Risk Index: HRI）を使って環境破壊が人間開発に与える影響を分析しているのが興味深い。このレポートでは中国の27の省（provinces）と3つの市（autonomous cities）のレベルで大気汚染、水質汚染、栄養水準、医療機関へのアクセスに関する指標からHRIを求めて地域における健康状況を把握しようとしている。また社会発展の程度を示すHDIと健康水準を示すHRIの相関を回帰分析によって調べ、HDIが向上するとHRIが低下するというおおまかな傾向を指摘している。本書も断っているように、この分析は予備的なものなので、この結果を即座に一般化することはできないが、地域発展と環境保全の評価のための仮説構築の素材を提供していると言える。

このように、本書は中国の環境問題を考えるために有用なレポートとなっている。

（アジア経済研究所開発研究部副主任研究員）